

第3回 第5期石狩市農業振興計画策定委員会 会議録

日時 令和3年12月2日(木) 9時30分～11時00分
場所 石狩市役所 401会議室(4階)
出席者 小林国之委員長、木村邦博副委員長、熊倉聡委員、新居久美子委員、大内幸二委員、
寺西範晃委員、阿岸哲広委員、加藤光治委員、菅野哲哉委員、羽田美智代委員、長
良幸委員、江崎幹夫委員
事務局 企画経済部産業振興担当部長 本間孝之
農政課課長 水野智之、農政課主査 袴田正、農政課主査 永澤幸城、
農業委員会次長 吉田雅人、農政課主任 大川ありさ
欠席者 八木沼英晃委員、久慈貞子委員
傍聴者 1名

次第

1. 開会
2. 議事

(1) 第5期農業振興計画(原案)の協議について

3. その他
4. 閉会

====審議内容の記録(審議経過、質疑、意見等)====

※ 以下の質疑・意見については、○委員発言要旨、●事務局発言要旨

1. 開会

2. 議事

(1) 第5期農業振興計画(原案)の協議について(※事務局より説明)

●(袴田主査) まず、原案説明に入る前に、前回会議の検討課題として、農業経営意向調査を年代別で再集計し検証した結果、設問の回答は各年代均等に答えており、回答傾向が大きく変化するものではなく、また、各農協でも調査データを確認したが、これにおいても今回の経営意向調査結果以外で特段、使用できる情報はなかった。

次に原案について。前回会議で示した素案から変更箇所を次のとおり説明。

〔表紙〕キャッチコピーは、羽田委員提案の「魅力発信！地域で支え、未来につなぐ いしかり農業」を目指す将来像とした。次世代に農業をつなげるため、農業の生産基盤を守り、また、市民を始め農業の魅力を発信することで、農業分野の関係人口の創出、市民と生産者との交流、地産地消、食育などから地域で農業を支える体制づくり、農業の活性化を目指そうという意味が集約されている。また、計画のサブタイトルはSDGsの観点から「いしかり農業持続化プラン」とした。

〔I〕P1から「計画の策定」として、計画の趣旨、位置付け、計画期間、産業振興関連計画における共通テーマと連携項目、計画の進捗管理、SDGsとの関係性、みどりの食料システム戦略との

位置付けで構成。P 1、策定趣旨に現計画のあらましと農業取り巻く情勢、新型コロナウイルス感染症の影響、SDGs、カーボンニュートラルとの関係を追記。P 2、計画の位置付けの体系図を変更。P 3、産業振興関連計画における共通テーマと連携項目を設定。P 4、計画期間の中間年度である令和8年度に必要な応じて見直しを行う旨記載。P 5、SDGsとの関係については前回素案では施策の展開で掲載していたが移動。P 15以降の基本方針の横に関連するSDGsのマークを表記。P 6、みどりの食料システム戦略を新たに追加。

〔Ⅱ〕P 7から石狩市農業の特徴として、R 2農協取扱高、各地区の状況と生産品目、ホクレンやとれのさと、古民家、道の駅、農協、農業総合支援センターの情報を追加。P 10からR 2農林業センサスの状況を掲載し、注釈の表記を一部変更。

〔Ⅲ〕P 13から施策の展開として、基本方向を基本方針に、基本事業を基本施策に変更。4つの基本方針と16の基本施策を設定。SDGsとみどりの食料システム戦略を考慮し、基本方針「環境と調和した持続可能な農業の展開」を1番目に移動。P 14、計画全体の構成を図で表記。P 15以降で各基本方針の現状と課題、対策の方向と取り組み内容をまとめ、それに対する数値目標を追加。

P 15 基本方針1「環境と調和した持続可能な農業の展開」では「環境保全型農業の推進」「農地の保全と効率的な土地利用」「スマート農業の推進」「有害鳥獣による農業被害防止対策」の4つの基本施策で構成。みどりの食料システム戦略に関連した取り組みの推進や効率的な土地利用の推進を施策に追加。P 17、数値目標は施策に関連した、エコファーマー認定戸数、経営耕地面積、スマート農業機械等導入割合、有害鳥獣による農業被害額を設定。P 18、基本方針2「多様な担い手の育成と経営の安定・効率化」では、「新規就農者・新規参入者の育成」「担い手・後継者の育成」「女性の経営参画の推進」「雇用労働力の確保」「農業経営の安定・効率化」の5つの基本施策で構成。P 20、数値目標は、担い手育成に関連した、新規就農・新規参入者数、指導農業士・農業士の新規認定者数を設定。P 21、基本方針3「石狩ブランドの確立」では、「振興作物の開発」「販路拡大に向けた取り組みの推進」「産学官連携の推進」で3つの基本施策で構成。なお、産学官連携は、前回は農商工連携としていたが、高校や大学との食資源を活用した連携や取り組みが図られていることから、産学官連携に変更。また、ふるさと納税返礼品による石狩米の希望が多く消費拡大につながっている現状を追加し、取り組み内容にPRと消費拡大を追加。P 22、数値目標は、新規振興作物の開発数、加工品の開発数、ふるさと納税返礼品の農産物品目数としている。

P 23 基本方針4「魅力ある農村づくりと都市住民との交流」では、「グリーンツーリズムの推進」「都市住民との交流」「地産地消の推進」「快適で豊かな農村づくり」の4つの基本施策から構成。数値目標は、グリーンツーリズム・農業体験参加者数、学校給食の地場産品使用割合、中山間地域等直接支払推進事業と多面的機能支払事業の取組面積を設定。

前計画で掲載していた地域別戦略については、前段の「農業の特徴」や各施策の中で課題や取り組みを盛り込み、今計画では地域別戦略を削除。

〔Ⅳ〕P 26から参考資料として、策定の体制と経過、農業経営意向調査結果、関係団体一覧、用語解説を掲載。

【質疑・意見】原案の各章毎に確認

〔I〕第5期石狩市農業振興計画の策定について

○(寺西委員) P 6、みどりの食料システム戦略 表中3の(1)持続可能な輸入食料・輸入原材料への切替えや環境活動の促進という表記が市の地産地消の推進に反するのではないかと。

●(水野課長) 国が示しているものは大きな指針であり、環境負荷低減に向けた全体の流れとしては間違っていないと考えている。本市としては、計画に基づき地産地消を推進し取り組んでいく。

○(小林委員長) 農水省の意図としては、輸入する場合においても、輸出国が環境に負荷を与えるような農業で出来た作物を輸入している部分があり、そういったものは持続性の観点から精査していくという基本的な考えではないかと。日本政府は全部国産にするとはいまだに考えておらず、輸入する5割位は、持続可能な生産システムに基づいたものを輸入するという表現だと私は理解している。

○(大内委員) P 4の余白が多いので、PDCA サイクルの用語解説を入れるなどレイアウト改善をしてはどうか。

●(水野課長) バランスも含め検討する。

○(寺西委員) P 1、9行目の「生産基盤の維持」を、「生産基盤の整備と強化」にできないかと。

●(水野課長) 当初、文言を「整備」で進めたが、インフラ整備などのハード対策に大きく関わってくる事から、土地改良事業による基盤整備に特化した表記にするなど内部でも検討した。近年は、施設の損傷による突発事故や、老朽化による損傷など様々な事案が発生している。その中で、既存施設をいかに守っていくかが大事だという事で、言葉をあえて「整備」から「維持」とした経緯があるのでご理解頂きたい。

○(木村副委員長) P 1、4行目、「安全安心な農産物を求める消費者ニーズの多様化」の部分について、生産者からすると安全安心な農産物を作ることは常識なので、これが厳しい状況という表現は違うのではないかと。別のところで表記できれば良い。

●(水野課長) 別の形で表記できるか検討する。

〔II〕石狩市農業の特徴

○(江崎委員) P 8、「古民家」を「古民家の宿」とし、「農家住宅を改築」を「農家住宅を改修」とした方が良い。

●(水野課長) 文言を整理する。

○(加藤委員) 以前までは地域別戦略の項目を立てていたが、外した理由を教えてください。

●(袴田主査) 今までは地域別戦略で、各地区の現状と課題、地区ごとの取り組みを掲載したが、地域課題としてあがっていた部分が担い手対策や後継者不足、スマート農業など、市内共通で取り組む課題であることから、地区毎の現状は農業の特徴に含め、課題や取り組みは施策ごとに盛り込むことで整理した。

○(小林委員長) 地域別に目配りがされた施策になっていないのではと危惧したが、杞憂だということと理解した。

〔Ⅲ〕. 施策の展開

○(長委員) P13、持続可能な農業の展開に、減農薬減化学肥料があるがそこで終わっている。石狩市は有機農業の拡大や進展は考えておられないのか。みどりの食料システム戦略では2050年には日本の農地の25%を有機農業にすると掲げている。今から10年後の計画なのでもっと踏み込んだ事を書く必要があるのではないかと。また、P15、環境保全型農業の推進において、取り組み内容の、みどりの食料システム戦略に掲げる中に、有機農業の拡大という文言を記載すれば、石狩市の農業の持続性が分かりやすくなるのではないかと。

○(小林委員長) 有機農業の点については計画にあまり出てこず、控えているような印象も受ける。

●(水野課長) 有機農業の拡大の文言掲載について、市内農業生産者による現状の取り組みに見合うかどうか農協の意見を参考にしたい。

○(木村副委員長) 有機農法については完全無農薬、有機肥料、減農薬等いろいろあり、有機農業についてはP15、16の環境保全型農業の推進でうたわれている。現状の課題を加味すると、稲わらを活用し、土づくりをしていくところと、化学肥料・化学合成農薬の5割以上低減の記載があれば良いのではないかと。今後、無農薬、有機肥料で作っていくのはなかなか厳しく難しい部分でもある。化学肥料・化学合成農薬の5割以上低減は、みどりの食料システム戦略の数字と異なるが正しいかと。有機農業は必要なものだが、現状の農業生産体制の中ではなかなか厳しい。できない目標を掲げてもどうなのかという部分はあるので、現状の表現で留めて頂けると良い。

○(小林委員長) みどりの食料システム戦略では化学肥料を30%、農薬は50%低減と示している。

●(水野課長) 改めて確認し、見合う数字に修正する。

○(大内委員) 厚田区に限った話にはなるが、実際に有機農業をしている方は、後継者という立ち位置でしているので、拡大という表現になっても厚田区は問題ないとする。

○(小林委員長) 若い農業者を勇気づけるのであれば、市の計画に言葉が入っている事で勇気づけられるので、背景として、キーワードとして検討していただきたい。

○(羽田委員) 私もSDGsに力を入れる中で、有機農業を項目に入れる事は必要とする。

●(水野課長) 有機農業の要素を取り入れながら、しっかり見える化できるようにしたい。

○(阿岸委員) P15、16で「生産性・品質向上に向けた基盤整備」、「地域ニーズに応じた基盤整備」を推進という文言はあるが、土地改良の言葉がないと事業化が難しい。土地改良の言葉を追加していただきたい。

●(水野課長) 土地改良事業による基盤整備は現在も進められており、これからも推進していく。意見をふまえ、言葉を整理する。

○(寺西委員) P15「生産性・品質向上に向けた基盤整備」ではなく、「生産基盤の強化」という文言が良いのではないかと。生産基盤と基盤整備は似たような言葉だが、実際は、生産基盤にするとかなり大きな範囲になる。

●(水野課長) 検討する。

○(長委員) P15 現状と課題で、土づくりの重要性を記述しており良い。稲刈り後にわらを焼く

と、炭酸ガスが発生するが今も続いている。計画に書いてある稲わらの堆肥化など具体策として進めていける内容を盛り込むと良いのではないか。

- (水野課長) 具体策などは、それぞれの取り組みとして実践して頂くという読み取りとしたい。
- (小林委員長) P17 数値目標の確認だが、13年度の目標がそれぞれ書かれているが、これは10年間の累計ではなく、13年度時点の直近1年間の目標という理解で良いか。
- (袴田主査) P17は単年の目標値であり、P20のように指標に10年間としているものは累計目標である。
- (小林委員長) P17 スマート農業の導入割合の目標値について、分母は何か。
- (水野課長) 国が進めているスマート農業の、加速化実証プロジェクトにおいて目指す姿、その指標に沿って全戸数を分母としている。
- (阿岸委員) スマート農業に関連し、厚田区・浜益区は基地局がない。取り組み内容に、基地局の設置等を入れて頂きたい。
- (水野課長) 今まで、基地局がないと精度が高められないと考えられてきたが、近年は、基地局がなくても精度の高いものが安価に流通しだしてきている。そういったものを活用するなどの観点から、基地局という言葉をあえて外している。知見を深め、農業者が何を求めているかということと十分把握した上で推進していくという考えで表記している。
- (木村委員) P20 JA女性部などが実施する農産物加工は加工品なのか加工事業なのか。
- (水野課長) 他の部分と合わせ整理する。
- (木村委員) P25 学校給食の地場産品の使用割合について、現在55.4%に対し10年後に55%以上と下回った目標になっているので60~70%以上が良いのではないか。
- (袴田主査) 食育推進計画と同じ目標値としており、地場産農産物は収穫時期が限定されることから、60%を超えるのは非常に難しく、現状値である55%以上としている。
- (長委員) 石狩ブランドの確立ということで、新港との連携は入れなくて良いか。
- (水野課長) P20、22の取り組み内容が関連しており、新港だけでなく関連産業とも広く連携をしていきたい。
- (寺西委員) 排水や冠水対策など、気候変動に対応した生産基盤の維持強化が今後の農業として本当に切に求められていると考えるが、記載できないか。
- (水野課長) 排水等の対策は大事な要素だと認識している。その中で基盤整備の一環で行っている部分と、日本型直接支払制度を活用し、行っている環境整備や、排水対策も含めて維持機能が発揮されており、今後も取り組みを推進していく。広い事業計画となるよう、排水等細かい文言はあえて表記していない。
- (菅野委員) 石狩市の新規振興作物は何か。
- (水野課長) 近年では、落花生やこんにゃく芋がある。

[IV]. 参考資料

- (羽田委員) 解説する用語に印を入れてはどうか。また、レイアウトとして【力行】は次ページ

にしてはどうか。

- (水野課長) 解説の印は追加し、カ行のレイアウトは修正する。
- (小林委員長) 今後、有機農業の記述も追加するのであれば用語解説にも追加頂きたい。
- (江崎委員) 農泊を用語解説に加えて頂きたい。
- (水野課長) 追加する。

[全体を通して]

- (新居委員) 私は、計画の内容に賛成する。
- (羽田委員) 石狩市の農家戸数も減少しており、計画が個々の農家に伝わっているのか危惧している。
- (熊倉委員) 計画の中身はいいが、農業者に浸透していない現状。いかに周知し、取り組んでいくかが一番大事ではないか。
- (小林委員長) 以上で質疑を終了し、皆さんからいただいた意見も含め、計画原案の調整については委員長と事務局に一任させていただくということでよろしいか。
※委員からの異議なし

3. その他(※事務局より説明)

- (袴田主査) 今後の予定について、次のとおり説明。
12月10日 総務常任委員会で原案報告。12月20日から1か月間パブリックコメントを実施。意見整理。2月下旬から3月上旬頃に第4回策定委員会を開催し、計画決定となる予定。

4. 閉会

令和3年12月22日 議事録確定

第5期石狩市農業振興計画策定委員会

委員長 小林 国之